

令和元年度

学校自己評価報告書

令和2年6月

専門学校宮城高等歯科衛生士学院

自己点検評価に関する集計結果

1. 学校の教育方針

宮城高等歯科衛生士学院の教育理念である、高度な専門能力・自ら課題を創造する・思いやりと社会性を持ったヘルスプロモーションの担い手として医療機関・施設・行政において、必要とされる各業務に適応できる人材を育成する。3年制課程をさらに充実させ、新たなる改革と発展を目指し、教職員の意識改革・自己研鑽に努める。加えて、高度な視点から多様化した歯科保健医療を捉えた質の高い歯科衛生士として国民の新たなニーズに応える。

下記に列挙した資質を備えた卒業生は、“歯科衛生士”の資格に誇りを抱きながら、歯科衛生士界のリーダーとして活躍できるよう、宮城県歯科医師会を始め、関連団体をあげて教育の充実を図る。

- (1) 基本的な医学知識を備えた行動
- (2) 生涯研修と自己啓発の意識
- (3) 歯科衛生ケアプロセスの実践
- (4) 対人サービスと社会性、コミュニケーション
- (5) 研究活動の奨励、海外研修制度

2. 本年度に定めた事業計画

- (1) 優れた資質を有する学生の確保とそのための効果的な情宣活動
- (2) 高等教育機関としての位置付け

本学院は、職業養成的性格から脱皮し、時代に即応したカリキュラム及び実習の内容を充実させ、それにともなった教職員の体制を整備する。

- (3) 宮城高等歯科衛生士学院・宮城県歯科医師会・会員歯科診療所、大学との連携した教育実習施設を教育機関として位置付け、カリキュラムとの連動を考慮。会員診療所、大学のそれぞれの役割分担を明確にする。
- (4) カリキュラムの充実
学習者主体の最新の教育が行えるよう、カリキュラムプランニング能力を修得し、常に見直しを行う。また模擬患者実習、臨地・臨床実習など臨床に直結した教育内容をさらに充実させ、適正な評価とフィードバックにより、学生の目標への到達を確かなものとし、即戦力を目指した教育を行う。
- (5) 大学への編入
単位制の導入により実現した卒業生の大学への編入をさらに奨励する。
- (6) 歯科衛生ケアプロセスの教育
歯科衛生ケアプロセスの教育を通して、問題解決能力を備えた歯科衛生士を育成する。
- (7) 歯科衛生士の活躍の場の拡大
多様な社会のニーズに応えられる幅広い知識・技術・態度教育の充実と、さらなる歯科衛生士の職域拡大に繋がる情宣・就職活動を積極的に行う。
- (8) 教員の資質向上
教員研修を重視し、学士、修士課程の履修を奨励する。全国の歯科衛生士学校養成所との交流・連携を通して、教員の資質向上を図る。

(9) 研究活動

学生は課題研究、卒業論文作成を通して、教員は学術研修、学会活動を通して、常に歯科衛生の理論と根拠を追求し、実践に結びつける努力を行う。

(10) 摂食・咀嚼・嚥下指導カリキュラム

学院内での講義実習、臨地実習をさらに向上させ、専門性の高い口腔ケアが行え、摂食・咀嚼・嚥下リハビリテーションの一端を担える歯科衛生士を育成する。

(11) 卒後研修の充実

歯科衛生士専任教員、職員全体の資質向上をはかる。専門職としての生涯研修を補完する研修の場の提供と、そのためのカリキュラムを構築する。

(12) 海外研修制度

既に成果を挙げている海外研修をさらに推し進め、国際水準を教育に反映させ、教育の質の向上を目指す。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(評価について 適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1)

(1) 教育理念・目標

本学院の教育方針・重点目標については、入学希望者に対してオープンカレッジ、学校ガイダンス等を行う際に説明している。また、保護者、在校生に対しては、入学時保護者会、学年保護者会、ホームルームの時間に説明・周知している。

評価項目	評価
A 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4.0
B 学校における職業教育の特色を生かしているか	4.0
C 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・学生・保護者等に周知がなされているか	3.8

【今年度の主な取組並びに成果】

- ① 教育懇談会を開催し、本学院の教育の理念や目標をより明確にするとともに、学則や教育課程の運用状況、その他諸問題について検討・協議した。
- ② 厚生労働省が実施する「専門実践教育指定講座」の認定を受けた。
- ③ 学校HPを全面リニューアルした。
- ④ 保護者並びに県歯科医師会会員に学生便覧を配布し、学校への理解を高めた。

【来年度の課題】

- ① 基本理念・目標等を継続的に達成させていくためには、入学者定員確保を中心に経営基盤の安定化が必要である。
- ② 歯科医療の高度化や、超高齢社会における多職種連携の重要性など、近未来社会への対応を模索していくことが必要である。
- ③ 学校の理念・特色・将来構想等について、保護者への周知方法を工夫して理解を深め、さらに協力体制の強化を図る。

(2) 学校運営

本学院は、宮城県歯科医師会を運営母体としており、管理運営体制は、「宮城県歯科医師会定款」、「宮城高等歯科衛生士学院運営規程」等に基づき設置運営している。教育管理運営体制として、「学院役員会」、「学院全体会議」を設置している。

「学院全体会議」は、学院長、副学院長、教務部長、副教務部長、専任教員、事務長、事務職員で構成し、学院運営、学生教育の方向性を検討し重要事項の決定を行っている。

また、自己点検評価や学生の福利厚生に関する事項についても協議、調整、議論を行っている。

評価項目	評価
A 目的等に沿った運営方針が策定されているか	3.7
B 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3.6
C 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか有効に機能しているか	3.4
D 人事、給与に関する規程等は整備されているか	3.0
E 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3.1
F 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3.4
G 教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3.4
H 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3.1

【今年度の主な取組並びに成果】

- ① 学院の教育方針並びに事業計画は、宮歯理事会並びに代議員会に上程し、内容を審議いただき、計画に沿った運営を行っている。
- ② 意思決定にあたっては、「宮城県歯科医師会定款」「宮城高等歯科衛生士学院運営規程」等に基づき、学院役員会、学院全体会議において協議して事業を推進している。
- ③ 人事給与等については、一般社団法人宮城県歯科医師会職員就業規程に基づき対応している。
- ④ 学校評価事業を実施するため、関係諸規定の整備、自己点検評価を実施した。

【来年度の課題】

- ① 学院運営の情報公開に向けて、学校関係者評価委員会を設置するとともに、学院自らの自己点検評価を実施する。
- ② 自己評価による改革が必要な項目については、積極的に改善に努める。

(3) 教育活動

厚生労働省の歯科衛生士養成所指定規則に基づいて教育課程の編成を行っている。歯科医学の進歩、歯科医療の社会的要請の変化を目極めつつ、新しい科目の導入、カリキュラムの改定などに対応する準備を進めつつ、教育活動を推進している。

専任教員に対しては、自己研鑽を積み、歯科医学・医療、保健、教育関連の学会、研修、講演への参加することを進めており、こうした取組により教員の資質向上と、教育指導の充実に努めている。

また、臨床実習打合せ会や講師、実習施設の指導者による教育懇談会を実施して、実習施設の指導者や講師との連携を図っている。

評価項目	評価
(目標の設定等)	
A 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3.9
B 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保にされているか	3.7
(教育方法・評価等)	
C 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3.9
D キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3.7
E 関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3.4
F 授業評価の実施・評価体制はあるか	3.6
G 教育に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3.2
H 成績評価・単位認定、進級・卒業認定の基準は明確になっているか	3.8
(教職員)	
I 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3.1
J 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3.1
K 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3.6
L 職員の能力開発のための研修等が行われているか	3.5

【今年度の主な取組並びに成果】

- ① カリキュラムについては、カリキュラム検討・戦略プロジェクトを中心に、大学、実習先の歯科医療機関の助言をもとに作成している。
- ② 成績評価等各評価については、学院全体会議において審議している。ただし、外部関係者の評価等については、今後の課題として検討すべきである。
- ③ 職員の能力開発の研修については、東北地区歯科衛生士協議会の研修や、各種学会への参加等により情報収集に努めている。

【来年度の課題】

- ① 事業へ評価体制の整備、教員の確保に努める必要がある。

(4) 学修成果

歯科衛生士国家試験合格率100%を目指して、専任教員、講師は密に連携して国家試験対策補講、模擬試験、学内模試、グループ学習、国家試験担当講師による個別指導など最大限の対策を講じている。平成29年度は98%、平成30年度も98%、令和元年度は100%の合格率となった。

就職については、県歯科医師会との密接な連携だけでなく、幅広く求人票を受け付けており、今年度も100%の就職率となった。進路に不安を持つ者に対しては、専任教員、担任による面談、保護

者を交えた三者面談等により、退学者の低減を図っている。

評価項目	評価
A 就職率の向上が図られているか	3.9
B 資格取得率の向上が図られているか	3.9
C 退学率の低減が図られているか	3.3
D 卒業生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3.4
E 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3.4

【今年度の主な取組並びに成果】

- ① 国家試験の全員合格、資格取得100%を目指し、思いやりを同じくして学校全体で指導にあっている。学院全体会議において学力分析を重ねることで情報共有が図られ、有効な検討に繋がっている。
- ② 特別な配慮や指導が必要な学生に対しては、教務、学校全体で細やかにサポートを行っている。

【来年度の課題】

- ① 歯科衛生士としての意識向上と、専門職の自覚を促す教育を強化する。
- ② 国家試験対策のスタート時期を早期に、全員合格を達成する学校全体のサポート体制をさらに強化する。
- ③ 個別相談や保護者面談を繰り返し、さらに学校カウンセリングを適宜実施することを含め、学校と家庭の連携を密にして可能な限り丁寧な指導を行い、不適応等による退学者を低減する。
- ④ 在宅の資格所有者に対する復職支援講習会等の内容や設定について、県歯科医師会、県歯科衛生士会や本校同窓会と連携し、さらに工夫していく。

(5) 学生支援

学生の福利厚生体制では、問題を抱える学生の個別相談は担任教員、教務担当役員を中心に行い、教務担当者全体で情報を共有し、問題解決を図っている。

健康管理については、全学生に年1回の健康診断を実施している。1年生には、各種抗体検査を行い、陰性の学生に対してはワクチン接種の必要性を説明し、ワクチン接種を実施させている。

経済的支援では、授業料は比較的低廉に維持しており、日本学生支援機構奨学金、教育訓練給付制度等の手続きサポートや保護者の経済的状況に応じた授業料等の分納などを行っている。

就職支援では、職業安定法や職業安定法施行規則による無料職業紹介事業による就職支援を行っている。また、県歯科医師会とも密に連携して、学生の希望に沿う就職先の決定に努めている。

評価項目	評価
A 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.9
B 学生相談に関する体制は整備されているか	3.9
C 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3.5
D 学生の生活環境への支援は行われているか	3.6
E 保護者と適切に連携しているか	3.6

F 卒業生への支援体制はあるか	3.1
G 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3.4

【今年度の主な取組並びに成果】

- ① 各学年担任教務との個別相談や保護者面談を実施し、可能な限り支援体制を充実させた。
- ② 学校カウンセラーによる教育相談が順調に行われ、おおむね目的を達成できたと思われる。また、担任教務や教務主任との面談も有効であった。
- ③ 厚生労働省「専門実践教育訓練給付」講座の指定を受け、次年度以降に向けて事務を進めた。
- ④ 高等教育段階の教育費負担軽減新制度の機関要件の確認申請を行い、指定を受けた。

【来年度の課題】

- ① 次年度は社会人の入学者が複数名となっているので、今後さらに増員を目指し、厚生労働省「専門実績教育訓練給付」制度を有効活用できるようにする。
- ② 学校の特質上、課外活動を推奨することはなかなか困難な面があるが、県や地域のイベント等に対応することで社会性の涵養に努めていく。

(6) 教育環境

歯科衛生士養成所指定規則に基づいた施設、設備を備えている。施設・設備などは低下しないよう対策を施し、教育環境及び質の向上に努めた。

防災については、法定に基づいた防災訓練を実施している。図書については、系統的に分類、整備し、歯科医学、医療の進歩に合わせた図書の充実を行っている。

評価項目	評価
A 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3.6
B 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	3.7
C 防災に対する体制は整備されているか	3.2

【今年度の主な取組並びに成果】

- ① すべての臨床実習施設を訪問し、院内見学や各指導者との面談を行い、よりよい教育体制構築に向けて共通理解を図ることができた。
- ② 記録可能な防犯カメラを設置することができた。

【来年度の課題】

- ① 防災訓練の実施、防災教育について努めていく。

(7) 学生の受入れ募集

歯科衛生士を志望する学生を広く受け入れることを基本として、学生募集を行っている。学校案内、募集要項、ホームページに学院の概要、入学試験、受験方法などについて示している。県下の高校訪問、校内ガイダンス、会場ガイダンスなどにより、学院の情報発信・周知に努めた結果、令和2年度入学者は定員の50名を確保した。

評価項目	評価
A 学生募集活動は、適正に行われているか	3.9
B 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3.8
C 学生納付金は妥当なものとなっているか	3.7

【今年度の主な取組並びに成果】

- ① 新たに歯科医療機関勤務者を対象としたAO入試制度を導入するとともに、AO入試の回数を1回から4回に増やした。
- ② 平成3年度入学生から施設整備費を増額し、施設整備の充実を図ることを決めた。
- ③ 学校HPを全面改良することができた。

【来年度への課題】

- ① 高校訪問、各会場ガイダンス、メディア等により、歯科衛生士の仕事について、さらに理解の浸透を図る必要がある。
- ② 宮城県歯科医師会の広報事業との連携をさらに強化する。
- ③ 入学者へのアンケート調査を行い、本学院選択のきっかけや参考媒体、紹介者等について広範に調査する。

(8) 財務

収支予算、事業計画は、過去の実績等に基づき作成し、適正な執行に努めている。決算報告については、設置者である県歯科医師会において監事及び公認会計士が確認しており、財務基盤は良好である。

評価項目	評価
A 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	2.8
B 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3.4
C 財務について会計監査が適正に行われているか	3.9
D 財務情報公開の体制は整備できているか	3.4

【今年度の主な取組並びに成果】

- ① 宮城県歯科医師会会立の歯科衛生士養成校として学院を運営しており、予算の執行や財務管理は適切に行っている。
- ② 宮歯HP上には、宮城県歯科医師会の財務状況の概略を公表し、客観性を担保した。

【来年度の課題】

- ① 厚生労働省「専門実践教育訓練給付」制度を有効活用できること、「高等教育段階の教育費負担軽減新制度」の承認を受けたことにより、社会人や低所得者層の入学希望者を確保する。
- ② 学院の魅力を広報するとともに本学院独自の修学支援制度の周知を徹底し、入学希望者確保に役立てる。
- ③ 定員確保が最も大きな課題であるが、一方で、適切に予算を削減することとともに、日常的に経費節減を心がけ、安定的で継続性のある経営を目指しが必要である。

(9) 法令等の遵守

学校教育法、文部科学省の各種通達、厚生労働省が定める歯科衛生士養成所指定規則を遵守し、学校運営を行っている。個人情報保護に関しては、その重要性について教職員、学生に周知徹底し、適切な対応をしている。

評価項目	評価
A 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.9
B 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.8
C 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3.3
D 自己評価結果を公開しているか	2.9

【今年度の主な取組並びに成果】

- ① 学校HP、宮歯HP上に「情報公開」欄を設け、文部科学省が示すガイドラインに従い学院情報を公開した。
- ② 学校関係者評価委員会の制度確立に向けて準備を進めている。

【来年度への課題】

- ① 学校関係者評価委員会を開催し、結果を保護者や一般に広く周知する方策を検討する。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価
A 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.6
B 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3.4

【今年度の主な取組並びに成果】

- ① 歯の塚供養、歯と口腔の健康週間、東北デンタルショーなどに学生を参加させ、業界関係者並びに地域住民の交流が図られた。

【来年度への課題】

- ① 今年度同様、学生に対して地域社会との交流を図らせたい。

(11) 国際交流

海外研修に取り組むにあたり、

- ① 海外の高度な教育機関の施設見学及び教育者における講義受講
- ② 歯科衛生士養成校におけるが構成同士の交流に重点を置き研修計画を推進している。

評価項目	評価
A 受入れ・派遣等において適切な手続き等がとられているか	3.8
B 学内での適切な体制が整備されているか	3.5

【今年度の取組並びに成果】

- ① 海外研修の訪問先であるカモソンカレッジ（カナダ）の学生を7月に受入れ、本学院生徒との技

術交流並びに交歓会を開催した。

- ② 3月に予定していた第49回生のカモソンカレッジ（カナダ）への海外研修は、新型コロナウイルス感染防止の観点から、急遽中止とした。

【来年度への課題】

- ① 今後、海外研修の学習効果を適切に評価することが必要である。
- ② 経費（航空運賃等）の拡大に伴い、生徒負担が大きくなったため、見直しが必要である。